

「歳入確保ワーキング・グループ」及び「歳出改革ワーキング・グループ」 の設置等について（案）

平成 28 年 4 月 14 日
総務部行財政改革推進課
総務部 財政課

1 本県の財政状況

本県の財政状況は、歳出面では、社会保障関係経費が医療・介護の自然増等により引き続き増加している状況にあることに加え、人件費において高齢層職員の割合が多くなっていることや、公債費が今後の県債償還のピークに向けて近年大きく増加するなど、財政の硬直化が進み、財政運営の自由度が急速に失われています。

今後 4 年間に向けた「中期財政見通し」においては、一般行政経費などの裁量的経費を前年同額で置いた自然体推計である試算 A では、年度内の財政調整基金の積み上がりや退職手当債を見込んでもなお、193 億円の財源不足が見込まれるなど、平成 29 年度以降の予算編成に向けて、歳入歳出全般にわたる抜本的な対策が不可欠となっています。

2 平成 28 年度における予算節減の取組

このような財政状況から、平成 29 年度当初予算編成に向けては、財源を少しでも多く確保するとともに、危機的な財政状況についての深い認識を全庁で共有するため、以下の予算節減の取組を全庁的に進めていくこととします。

(1) 旅費・消耗品費等の節減

平成 27 年度最終補正後予算における、旅費・消耗品費それぞれについて 20%以上、使用料及び賃借料について 10%以上を節減することを目指し、以下の取組も参考にしながら、それぞれにおいて創意工夫して取り組むこととします。

① 出張の回数・人数の最小化

◆出張そのものの精査

◆人数は原則 2 名以内（支障がないものについては 1 名） など

② 消耗品、コピー使用料等の節減

◆文房具の新規購入について、当面見合わせるなど、抑制を図る。

◆コピー用紙使用のこれまで以上の節約

・部長級会議では映写資料の活用や配布資料のページ数抑制による紙使用の縮減

・庁内会議で配布されるページ数の多い資料印刷については 2 ページを 1 ページに集約する機能を活用

・大量印刷を行う場合には、原稿の入念チェックとともに、高速コピーを活用

◆カラー印刷の原則禁止（対外的な資料は除く）

◆無駄な電力の削減（小まめな消灯、パソコン蓋綴じの徹底） など

(2) 予算節減額の次年度予算加算制度の実施

事業の休止や効率的な執行等を促進するため、平成 28 年度予算（政策的経費（非公共事業）及び庁舎管理経費等に限る。）を節減した場合に、当該節減額（一般財源ベース）の 3 分の 2 に相当する金額を、平成 29 年度当初予算における政策的経費（非公共事業）の予算要求上限額に加算（一般財源ベース）できる措置を実施することとします。

※ 入札による減などの当然減は、加算措置の対象から除く。

3 更なる行財政改革の推進に向けた庁内検討組織の設置

2 の単年度の取組に加え、中期的には、平成 28 年度を初年度とする「第二次三重県行財政改革取組」を着実に推進するとともに、さらに、機動的な財政運営の確保に向けて、より具体的で効果的な方策を検討するため、庁内横断的な検討組織を立ち上げることとします。

(1) 庁内検討組織の概要

① ワーキング・グループの設置

行財政改革推進本部に、検討テーマに応じたワーキング・グループ（以下、「WG」という。）として、「歳入確保WG」と「歳出改革WG」を設置し、それぞれ課長補佐級又は主査級の 10～12 名程度の職員で検討を進めます。

② 各WGの扱うテーマ

【歳入確保WG】

多様な財源確保、県有財産の貸付・売却の促進 など

【歳出改革WG】

歳出項目全般

(2) 今後の日程（予定）

4月	WGの発足
	※WGの検討状況については、行財政改革推進本部 本部員会議に適時報告
7月	WGの中間とりまとめ
9月	WGの最終とりまとめ
10月	議会において、経営方針（案）、予算調製方針の公表